1人当たりの実際のスペース

災害対策部会　副部会長　利根川　隆

八雲小避難所運営訓練を10月1日（土）に2年振りに実施しました。今回は震災発生を夜間と想定し、午後4時より訓練を開始し午後6時半頃終了しました。

コロナ禍が収束していない状況下、訓練は今回もコロナ対応を基本とし、参加人数を制限して班メンバーと防災課及び参集職員を含め60数名が参加しました。

避難者は名前などを登録

感染者は別に専用受付へ

今回は避難所運営業務を全員で共有することを目的とし、各班の業務を参加者全員が実際に体験しました。

参加者は4班に分かれ、給食・物資班はまかないくん（巨大湯沸かし器）を使ってα化米を調理及びパック詰めを行い、総務・情報班は避難者の受け入れ(検温→受付→記帳→避難者の避難場所への誘導)を訓練しました。

間隔をあけて順番に受付

マンホール直結トイレを見学

簡易トイレは使用後に凝固剤投入

また、保健・衛生班では簡易トイレ及びマンホール直結型トイレを組立て、施設・安全班は避難所となる体育館の有効スペースを確認するため実際の居住スペースをブルーシートで示し、簡易テントと段ボールベッド、更衣用テントを組立てました。

防災課からは、発災から学校集合、避難所開設までの参考例の説明がありました。

訓練を終えて、各班での反省点を出し合い、災害対策部会でとりまとめ、来年の住民を交えた避難所運営訓練に活かして行きたいと思います。

α化米を調理して配布

傷病者のスペース

女性用更衣・授乳スペース

主催:八雲住区住民会議　青少年育成部会

PTAのお母さんも張り切って

青少年育成部会　部会長　福谷秀樹

青少年育成部会では11月26日(土)に八雲小学校をお借りし、「6年生限定！夜の学校探検！」を開催しました。参加者は55名で8割以上の児童が参加してくれて、最終学年のよい思い出になったことと思います。

凝った仕掛けをPTAの皆さんで準備

作りこまれた墓場もあります

この行事はいわゆる肝試しですが、夜の真っ暗で静まり返った教室はそれだけで恐怖感があります。そこへ、時折おどろおどろしい音が校内放送で流れ、さらに恐ろしさが増します。ルールは、3~4人で1グループとなり4つの教室を回って、各教室に置かれたお札（おふだ）を持って帰ることです。

各教室では八雲小の先生方やPTAの方々、そして私たち青少年育成部会がいろいろな怖い仕掛けを用意し子供たちを待ち構えていますので、お札を手にするのは容易ではありません。

途中で立ちすくんでしまう子もいましたが、全員がお札を手にゴールすることができました。最後に集合したとき「思ったより怖かった人」と聞いたところ、多くの子どもたちが大喜びで手を挙げてくれて、「やってよかった」と実感いたしました。

PTAのお父さんです

こわごわ教室に入る

暗闇から急に出てきて「キヤー」

階段の踊り場にも、出ます!

八雲小の先生方には計画を練るのにお知恵を拝借し、また進行も担っていただきました。当日は学芸会の後でお疲れにもかかわらず多大なるご協力をいただきまして、大変感謝いたしております。PTAの方々には例年、非常に凝った内装や仕掛けで子どもたちを盛り上げて（怖がらせて）いただき、感謝しております。

新型コロナ感染者数が減ってきてはいましたができる限りの感染症対策は行いまして、事前応募制とすることで参加者数を把握し参加者を特定しました。また、当日は体温と体調を記入した参加票を持参してもらいました。

今後は、感染予防等の安全に十分気を付けながらも、徐々に活動を例年に近づけていき、今まで以上に笑顔あふれる八雲の町にしていきたいと思います。

曇り空でしたが体を動かすにはちょうど良い気候の中、３年ぶりに『第３４回みんなの運動会』が開催されました。

やくもスポーツ交流会実行委員会　委員長　村松美弥子

幼児も懸命にハイハイ

校長先生などが見本のハイハイ

今年度はコロナ禍の中、安全に開催できるように事前申し込み制にし、１部低学年と２部高学年に分け、密にならない接触しないような競技を考えて行いました。

八雲住区恒例の“八雲の晩ごはん”では全員参加で、長谷校長や住区会長が選ぶ色の玉を当てる競技にみんなで一喜一憂して大盛り上がりでした。

全員参加で八雲の晩ごはん

うちわでカレー運び

子どもも大人もパン食い競争

子ども達には飴レイのお土産

当日は１部２部合わせて２８１人という沢山の方に参加いただき、久しぶりににぎやかで楽しい運動会となりました。